

中山間地は日本の原点。守ります、築きます、中山間地域の暮らしを。

県政をもっと身近に！

県政報告

第9号

令和3年3月

島根県議会議員

高橋まさひこ

高橋まさひこ事務所 〒699-1251 島根県雲南市大東町大東1888 TEL0854-43-8057

私たちの生活を一変させた新型コロナウイルス感染症。一年以上が経過した今、感染者の下げ止まりと新たに変異ウイルスの拡大が心配される状況の下、雲南が誇るサクラが開花し、私たちの疲れた心を和ませてくれています。

さて、二月県議会では、新型コロナウイルス感染症対策、丸山県政の柱である島根創生などをめぐって活発な議論が繰り広げられました。

最終日には、新年度予算総額四千六百七十億円など計八十三議案が可決成立しました。

令和三年二月定例会

(二月十六日～三月十六日)

高橋まさひこ 一般質問

- ① JR 木次線存続問題
- ② コロナ禍での高齢者対策
- ③ 監査制度の充実強化について

JR 廃線を含めて
打診する考え
県 利用促進へ
一、二〇〇万円計上

木次線存続問題については、第八号でも特集で取り上げました。

丸山知事は所信表明で「JR木次線の利用促進のため支援を強化していく」と述べられ、コロナ感染症による支出でこれまで以上に厳しい県財政の中、新規に利用促進事業費二千百万円を計上されました。

一般質問するにあたり、「雲南市蒸気機関車C56108保存会」の皆様と意見交換をさせていただきました。この方々はボランティアで雲南市木次町に展示されている蒸気機関車の管理を中心に活動されていましたが、更に存続のための写真展や機関誌の発行、ウェブを通じた啓発活動にも努められています。

下久野駅では、駅構内で畑を耕す独創的な環境を整備され、駅周辺では毎年イベントを開催。出雲大東駅舎内では音楽会が開かれ、工夫した楽しい仮装列車も走っています。



保存会の皆様（左側）との意見交換

また日登駅では、木次線で働いていたメンバーが当時の勤務服装でにぎやかだった頃を再現されています。このように関係自治体や地域住民は地道な活動に汗を流されています。堀江晴俊保存会長は、各地で活動されている方々の連携強化の必要性を強調されています。しかし、残念なことに新型コロナウイルス感染症が心配されるため、啓発と利用促進が十分に出来ない状況です。



清掃活動に汗を流す保存会員たち

令和三年一月二十二日の毎日新聞にJR西日本長谷川社長のインタビュー記事が載っていました。「新型コロナウイルスで外出・出張の自粛やテレワークの普及で鉄道利用客が減り、本年度末二千億円を超える最終赤字となる見通しで、翌期は二年連続の赤字は避けたい。赤字ローカル線は喫緊の課題。バスやJRT（次世代型路面電車）への代替えなど輸送の在り方について積極的に問題提起していく」と述

べ、廃線を含めて地元で打診する考えを示されています。県に対して、今のところそのような説明はないとのことであるが、今後十分に注意を払う必要があると考えています。

孤立させない対策が急務

高齢者が高齢者を守る地域にとって、コミュニケーションは極めて大事なことです。コロナ禍で自治会活動が抑制され、近所付き合いも以前より少なくなっています。こうした中で、雲南市において『孤独死』が発生しました。

この方は一月二十四日に親族の方に発見されました。自宅に一月十六日までのメモがありました。いつ亡くなられたのかわかりません。通常、たまった新聞受けを見れば異変に気が付きますが、購読されていなかったのも発見が遅れた要因の一つです。

県内の一人暮らし高齢者は、七人に一人の割合で、今後益々増えて行くのは確実です。

社会的に孤立しやすい状況にあり、通院や買い物などの日常生活への支援に加え、見守りや声掛けなど地域全体で支える必要性が益々大きくなっています。具体的な活動では、自治会での会合や行事などを通じた日常生活▽老人クラブなどの個別訪問▽声掛け▽安心旗の掲揚▽郵政ボランティアによる安否確認を兼ねた配食サービス——など様々な取り組みが行われています。

また、コロナ禍においては高齢者自身の外出や地域での交流が少なくなり、高齢者を支える活動も制限されていますが、民生委員による積極的な電話や訪問による見守り、声掛けや知恵を絞った自治会の先進的な取り組みも行われています。

事例として、木次町斐伊自主組織と三刀屋町鍋山自治振興会では、携帯電話の親子機能を利用した二十四時間態勢の見守り、看護師による健康チェック、水道検針に合わせた声掛けも実施されています。



常に身につけている緊急時ホットラインの子機

内部統制評価報告書を提出へ

地方制度調査会からの答申により、平成二十九年地方自治法等の一部が改正されました。主旨はガバナンスをしっかりと守った中で、最小の経費で最大の効果を上げる事務の適正化を確保するために監査制度運用の充実が求められ、県は来年度に向けての方針の策定と『内部統制評価報告書』を毎年議会に提出されることとなりました。

特集

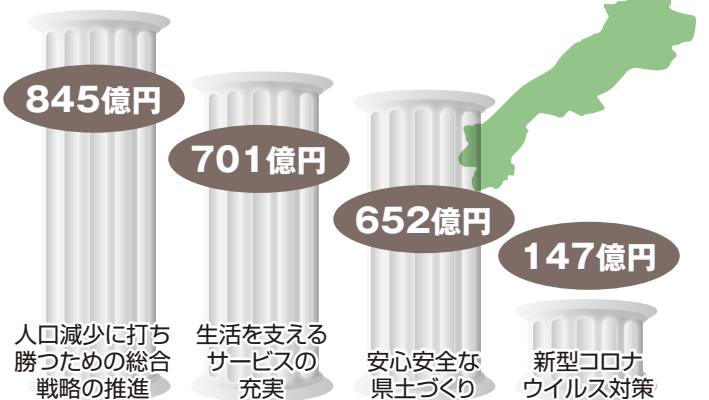
令和 3(2021) 年度 当初予算のポイント

新年度の当初予算は、引き続いて新型コロナウイルス感染症対策と、丸山県政が20年度から力を注ぐ人口減少対策を盛り込んだ『島根創生』推進の両立を進める予算として編成しています。

奥出雲・雲南地方での暮らし、経済活動に大切なJR木次線の利用促進にも新規事業が盛り込まれました。

予算の4つの柱

当初予算額：4,670 億円



新型コロナウイルス対策 147億円

- ワクチン接種に伴いコールセンターなど相談体制整備 … 5,804万円
- 「GoToイート」に県独自の上乗せ支援 … 6億円
- 中小企業への制度融資 … 10億3,100万円
- PCR検査体制の確保 … 1億7,697万円

活力ある産業をつくる 302億円

- 「美肌県しまね」の観光振興 … 3億4,100万円
- 持続可能な米作りの確立 … 1億2,500万円
- 若年者の県内就職促進 … 3億1,041万円
- 特色ある生産と販売の促進 … 2億5,800万円

結婚・出産・子育ての希望をかなえる 107億円

- 放課後児童クラブの時間延長や待機児童解消など支援 … 7億5,007万円
- 小学校6年までの医療費助成 … 2億4,200万円
- 不妊治療支援 … 2億6,200万円

地域を守り、のばす 385億円

- JR木次線利用促進 … 2,110万円
- 農林漁村のインフラ整備 … 71億4,900万円
- 「モデル地区」の構築による小さな拠点づくり … 3,000万円

島根を創る人を増やす 51億円

- U・Iターン希望者受け入れ充実 … 4億3,900万円
- 外国人の受け入れ・共生 … 2億2,374万円
- 県内の高校生、大学生の地元就職促進 … 3億2,100万円

二月十六日から始まった議会中、丸山知事の聖火リレー中止の検討、国が緊急事態宣言した都道府県のみ飲食店への補償対策の是正要求、そして小池東京都知事の政治的パフォーマンス優先のコロナ対策の進め方に痛烈な批判をされました。

現場主義、県民目線で行動されている丸山知事は当たり前のことを発言されているのにすぎません。しかし、東京を中心に考えるメディアにとっては、国や東京を批判する丸山知事の姿勢に新鮮さを感じ、大きなニュースとして取り上げ、知事の発言に多くの国民が共感を持つことになりました。

県議会議員も国に対し同様の考えで、三月八日に疲弊する飲食店や宿泊施設への救済を主とする意見書を全会一致で可決しました。また、全国知事会でも影響を受けている三十四県の知事が国に対し意見書を提出しています。

二年前に農林水産商工委員長に就任し、新しい島根農業の確立のために頑張ろうと決意をしていました。が、新型コロナウイルス発生のための対策が中心となり、当初計画した調査研究も中途半端となっていました。ただ、米中心の農業では中山間地は生き残れないと常々思っていましたので、水田園芸と畜産を振興していく方向性を明確にすることができたことは幸いです。

次はどの委員会に所属するかわかりませんが、丸山知事の政治姿勢を見習い、現場主義、県民目線で頑張っていきます。

県議会の動向、詳しい活動状況に興味ある方はアクセスを！



WEBサイト



高橋まさひこ事務所
発行責任者 高橋雅彦

〒699-1251 島根県雲南市大東町大東1888
TEL.0854-43-8057 FAX.0854-43-6479

<https://m-takahashi.jp>
info@m-takahashi.jp